レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成30年9月12日	使用開始日			
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	福永　睦	化学療法委員会承認	平成　30 年　10 月
レジメン名	アービタックス【初回】+FOLFOXIRI				
疾患名	大腸がん	適応の備考			
適応分類	進行再発				
1コース日数	14　日間	総コース数	1　コース	催吐性リスク	中等度

抗がん剤投与量・投与日　アービタックス400mg/㎡day1、アービタックス250mg/㎡day8, イリノテカン150mg/㎡ day1、オキサリプラチン85mg/㎡ day1、5－FU2400mg/㎡ day1（46時間）

治療スケジュール ・ 投 与 日 程（ 投 与 日 は ● ）　(day)

投与順	ルート・方法	薬 剤 名	投 与 量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食20mL	1 本 / body		●							●						
	中心静脈注射																	
2	主ルート	生食50mL	1 本 / body	15 分	●							●						
	中心静脈注射	ﾃﾞｷｻｰﾄ注射液6.6mg/2mL	1 本 / body		●							●						
		ﾎﾞﾗﾗﾐﾝ注5mg/1mL	1 本 / body		●							●						
3	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射	アービタックス	400 mg / ㎡	2 時間	●													
			/															
4	主ルート	生食250mL	1 本 / body									●						
	中心静脈注射	アービタックス	250 mg / ㎡	60 分								●						
			/															
5	主ルート																	
	中心静脈注射	生食100mL	1 本 / body	60 分								●						
6	主ルート	生食250mL	1 本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射	プロイメンド注150mg	1 本 / body		●													
	抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴する		/															
7	主ルート	ｱﾛｷｼ注ﾊﾟｯｸ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射		/															
8	主ルート	5%ブドウ糖液500mL	1 本 / body	90 分	●													
	中心静脈注射	イリノテカン	150 mg / ㎡		●													
		減量基準あり	/															
9	主ルート	5%ブドウ糖250mL	1 本 / body															
	中心静脈注射	オキサリプラチン	85 mg / ㎡	2 時間	●													
	レボホリナートとオキサリプラチンは同時開始		/															
10	側管	5%ブドウ糖250mL	1 本 / body	2 時間	●													
	中心静脈注射	レボホリナート	200 mg / ㎡		●													
	レボホリナートとオキサリプラチンは同時開始																	
11	主ルート	生食100mL	1 本 / body	46 時間	●													
	中心静脈注射	5-FU	2400 mg / ㎡		●													
		点滴速度：46時間																
		インフューザーポンプ使用																
	希釈後の液量を総量100mLとなるよう調製する																	

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。（例：Rp2とRp3を同時に投与開始する。）

【投与上の注意】

Rp.6)生食＋プロイメンドは削除可能（その場合は、デキサート注を9.9mg(6.6mgも可）にする）
初回投与時及び嘔気、倦怠感が強い場合はプロイメンドと併用してday2にデカドロン錠4mg/day,day3にデカドロン錠8mg/dayの内服を推奨する。
Rp 11）の5-FU注は、インフューザーポンプを使用して投与する。
穿刺時、生食を使用し、ポートの通過を確認すること。
オキサリプラチン：希釈は5%ブドウ糖液のみ。
・ﾌﾟﾛｲﾒﾝﾄﾞは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。
・ﾌﾟﾛｲﾒﾝﾄは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。
・ﾌﾟﾛｲﾒﾝﾄﾞの次に5-HT3受容体拮抗薬を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。
　Rp.9とRp.10を同時に投与開始する
アービタックス：希釈は生食のみ。総液量を250mLに調製。
アービタックス：前投薬として、アービタックス投与前に、ポララミン注及びデキサート注が必要。
アービタックス：投与終了後は、infusion reactionを観察するため、1時間の観察時間が必要であり、単独投与の場合は初回アービタックス投与後生食100mLを1時間かけて滴下する。
アービタックス：投与速度は1回目のみ2時間、2回目以降1時間。
アービタックス：投与終了後は、本剤と同じ速度でラインを生食でフラッシュすること。
アービタックス：初回投与時は、400mg/㎡を2時間かけて投与、2回目以降は250mg/㎡を1時間かけて投与すること。
・day1　デキサート注は、3.3mgでも可
UGT1A1遺伝子多型にて＊28homo、＊6homo及び＊28heteroと＊6heteroを同時に有する症例は主治医判断でイリノテカンの減量(125mg/㎡または100mg/㎡)を許容する。